

○ 第2回食肉業界懇親ゴルフコンペ、「商売につながれば有意義なこと」と村上社長 コンペには147人が参加、優勝はコエクサマックスアグロジャパンの窪田氏

第2回食肉業界懇親ゴルフコンペが9月30日、福岡県筑紫野市の筑紫野ントリークラブで開催され、約150人の業界関係者が



参加した。発起人は、JA全農ミートフーズ中村哲也社長、伊藤ハム米久ホールディングス堀内朗久食肉事業本部事業本部長、エスフーズ村上真之助社長、スターゼン横田和彦社長、日本ハム前田文男取締役常務執行役員、ハニューフーズ浅田勘太郎社長、プリマハム千葉尚登社長(網野真常務食肉事業本部長が出席)、丸大食品佐藤勇二社長の8人。前日(29日)に福岡市内で開催された懇親会では、発起人が壇上に上がり(=写真、左から中村社長、堀内本部長、村上社長、横田社長、前田常務、網野常務、佐藤社長)、それぞれあいさつした。

発起人を代表して、エスフーズの村上真之助社長は、「今回で2回目を迎えた。今回も北海道から沖縄まで大勢の方に集まっていた。先ほどの講演(次記事)では、産出額の話があったが、個々の企業では決して大きくはないが、皆さんが集まれば大きな金額になる。結局、人と人、会社と会社がつながって、そこで売上げができていく。こうした機会ですべてのつながりができて商売が新しくできれば、それが一番有意義なことだと思う。ぜひ、これを機会に関係が広がって食肉業界が盛り上がり、日本の経済も消費が伸び、海外とのやりとりが増えて行けばと思う。この機会を大事にして、また来年も皆さんで集まれることを願っている」とあいさつした。

その後、前田文男日本ハム取締役常務執行役員が「厳しい環境にあり、当社も解決するすべがある訳ではなく、しっかり商売することが大事

だと思っている。不確定要素が多いなかで、どう予測するのと言われるが、なかなか簡単にはいかない。ただ、国民の皆さんに動物性タンパクを届ける重要な責務がある。今日、明日はしっかり語り合い、業界の発展について皆さんと話し合う場としたい」と乾杯の音頭を取り、懇親に入った。

最後は横田和彦スターゼン社長が「業界に入って38年になった。3年前に社長に就任したが、今、痛感していることは学生が採れないこと。面接に来られるが、『ご縁があったら』と我々が言われる。私が入った時は、当然ものすごく働いたが、ある時、面白いと思った。自分で売った牛肉を食べておいしいと言われた。この面白さをどう伝えたらいいのか。お肉がないとハムも、ハンバーガーも、ローストビーフもできない。その奥深さを何とか伝えたい。本日早朝にラグビーがあり、サモアに勝利した。チームはほとんどが外国人という人もいるが、日本でラグビーをする仲間たちの代表として選ばれているようだ。我々はチームは違うが、食肉業界としてはワンチームだ。皆さんとまとまって、さらに業界を発展させたい」と述べ、三本締めで懇親会を終えた。

ゴルフコンペには147人が参加し日頃の腕を競った。優勝はコエクサマックスアグロジャパンの窪田恭大代表取締役(グロス76)、準優勝はミート・コンパニオンの安次嶺徳雄執行役員(同77)、3位はエスフーズの平井博勝専務取締役営業本部長(同87)だった。